

作成日:2017年8月10日

## 次世代教育クルーズ海縁塾 in 白石島3日間 報告書

### ■ ①事業内容

日時：2017年8月8日（火）～8月9日（水）2日間（台風により1泊2日に変更）

場所：岡山県笠岡諸島 白石島

対象：岡山県内の中学生～高校生

（中学生3名、高校生4名・大学生2名）

目的：グローバルな視点を持ち、多様な人々との協働を通じて地域の発展に寄与できる次世代人材育成。

手法：留学生と英語で会話をすることで共通言語が英語の環境を作る。白石島の漁協や自然、歴史について体験型で学ぶ。

### ■ ②2日間のスケジュール

日次	月日（曜）	行程	食事
1	8/8(火)	11:00 集合：笠岡市住吉港集合 11:20 住吉港出港～～～11:50 白石島港着 12:00～旅館中西屋食堂にて昼食 13:00～公民館にて白石島についての講話 14:00～白石島漁協にて講話 14:30～エビの殻向き作業 16:30～白石島島内フィールドワーク 18:30～中西屋外にてBBQ 20:00～徒歩にて公民館へ移動 白石島踊り体験 島民の方との交流 21:00～鑑賞後、徒歩にて中西屋へ 各自風呂など済ませ次第就寝	朝：－ 昼：○ 夕：○
2	8/9(水)	8:00～起床後、食堂にて朝食 8:30～朝食後、身支度と仲間との交流 10:00～シーカヤック体験 11:02～長崎県に原爆が投下された日ということで平和 指導後、黙祷 黙祷後、海水浴 12:00～中西屋にてシャワー、着替え 12:30～中西屋食堂にて昼食	朝：○ 昼：○

作成日:2017年8月10日

		13:15～徒歩にて公民館へ移動 13:30～1日目で袋詰めしたエビの商品化に向けてのワークショップ 15:30～外国人アーティスト方との交流 15:55 白石島港出港～～～16:20 住吉港着 各自解散	
--	--	---	--

■ ③事業レポート

1. 白石島・白石島の漁協についての講話

日本人生徒、留学生が各自自己紹介を済ませた後、天野正公民館長により白石島についての説明。その後漁協長のもとで白石島や瀬戸内海における漁業や海洋環境についてのレクチャー。



2. エビの殻向き

2人1組のペアを作って協力し、殻向きと袋詰め作業をした。競争形式でやることで生徒たちの意欲を向上。全体的にはまだ打ち解けてはいないもののペア同士ではだいぶ打ち解けることができた。しかし留学生と日本人学生間ではなかなか会話が進まない様子であった。また2時間という長時間の間、作業をしていたため、飽きるものや疲れて作業が進まないものが見られた。



作成日:2017年8月10日

### 3. 白石島島内フィールドワーク

島民の原田茂さんにより島内を徒歩で案内していただいた。島内の小学校や神社、昔使われていた映画館などを回することで白石島の地誌的・歴史的な内容を実際に見て学んだ。歩いて移動したことで他の島民の方とも話す機会があり、また道端に咲く植物にも大いに興味を示して多くのことを学べた有意義なフィールドワークになった。

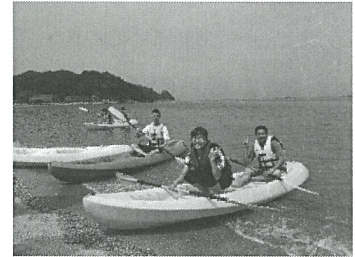


### 4. 白石島踊り体験

島の子供達やお年寄りまで多くの方々に公民館に集ってもらい、踊りを披露していただいた。始めは輪の外から見ていたツアー参加者たちも島のおじいさん、おばあさんに教えていただき最終的には全員で踊りを踊ることが出来た。

### 5. シーカヤック体験・海水浴

体力差や留学生との組み合わせに考慮し、2人1組で舟をこいだ。それぞれのペアが会話を楽しみながら漕いでいた様子。またここまで漕いでみようと思目標設定して協力して漕いでいたペアも見られた。留学生とペアになっている学生には英語で会話するように指導した。シーカヤックの時間から留学生が1人加わったおかげで、一気に日本の学生、留学生共に打ち解けることが出来た。



### 6. 天日干しエビの商品化に向けてのワークショップ

始めに留学生の方に自己紹介、国の紹介、将来の夢について英語で話していただいた。その後日本人学生7名、留学生3名の計10名を3グループに分け、1グループに〈商品名とパッケージのデザイン〉、〈エビを使ったレシピ〉、〈売り方〉の3つから1つテーマを与えそれぞれのグループでアイデアを出し合った。スタッフも各テーブルに入りサポートに回った。最後、発表の時には皆英語を意欲的に使おうとしていて、留学生も活発に英語で質問をしていたため、大いに英語に触れることが出来た。



7. 食事について

全ての食事を中西屋にて準備していただく。  
1日目の夕食には中西屋外のスペースでBBQをさせていただいた。BBQ中に学生らはいぶ打ち解けた様子で、お互いにニックネームを考えるなどして仲を深めた。島でとれた魚や野菜をいただき、それぞれ食事を楽しんでいた。



8. 宿泊施設について

参加者全員が中西屋にて宿泊。部屋の中は布団、鏡、テレビなど最低限の物はあるがアメニティはなかった。大浴場に歯ブラシとドライヤーはあった。古い造りではあったが綺麗にされており窓からは海が見えるなど快適な時間を過ごすことが出来た。

9. その他イベント・工夫・反省

2日目の8/9が、72年前に長崎に原爆が投下された日であった為、急遽簡単にはあったが平和指導、黙祷を行った。ツアー中はガムテープにニックネームを書いて服に貼ることでお互いに呼びやすく、関わりやすくする工夫を行った。ペアを作る際は性別、学年、英語を話す環境づくりなどに考慮して組ませるようにした。なかなか日本人学生同士と留学生が打ち解けるのに時間がかかってしまった為、始めにアイスブレイク出来るようなアクティビティが1つあるとよりよくなったのではないかと考える。また日本人学生たちは英語を使いたいものの、なかなか勇気が出ず話せないといった様子であった為、スタッフ側からアプローチするように仕掛け、英語を話すきっかけ作りをするよう工夫した。また急遽留学生が来れなくなったり、遅れてくるなど集合状態が悪かったため、事前に留学生に説明会を行うなどして確実に来てもらう工夫が必要である。



## 10. 総括

台風により一泊二日に変更されたため、当初予定していたスケジュールをすべて遂行することが出来なかった。しかし島の自然、文化、歴史など様々な分野における活動を実行でき、限られた時間の中で充実したアクティビティを実行することができた。島の方々も、若い学生らが積極的に活動に参加してくれていたために、とても喜んでおり、大いに協力をしていただいた。学生らは様々な体験をするなかで、自分の出来ることを協力し、工夫してやっており、英語を話す力の他にも大切なスキルを学べたと考える。

